

かんきつ、果菜類、茶などの害虫防除に

スミロディー[®]

乳剤

2成分混合

広い殺虫スペクトラム

難防除害虫にも高い効果

パ
ッ
ケ
ー
ジ
が
新
し
く
な
り
ま
し
た
!





特長

1

広い 殺虫スペクトラム

スミロディーは
ロディー(フェンプロパトリン)と
スミチオン(MEP)の混合剤のため
殺虫スペクトラムが広く、かんきつ、
果菜類、茶などの主要害虫に
高い効果を示します。

2

難防除害虫にも 高い効果

スミロディーは有機リン剤や
合成ピレスロイド剤などの単剤では
防除困難な訪花害虫(コアオハナムグリ、
ケシキスイ類、ミカンキイロアザミウマ、
アブラムシ類)などの難防除害虫に
対しても優れた防除効果を示します。

殺虫剤分類 **3A,1B**

適用作物・害虫と使用方法

農林水産省登録 第17587号 [有効成分] フェンプロパトリン・・・5.0% MEP・・・45.0%

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法
みかん	コアオハナムグリ、ケシキスイ類、カメムシ類 チャノキイロアザミウマ、アブラムシ類、ケムシ類	1,000～2,000	200～700	収穫14日前まで	4回以内	散布
	ミカンハモグリガ	2,000				
	ミカンハダニ、ミカンキイロアザミウマ	1,000				
かんきつ (みかんを除く)	コアオハナムグリ、ケシキスイ類 チャノキイロアザミウマ	1,000～2,000	200～700	収穫14日前まで	3回以内	
	カメムシ類、アブラムシ類、ケムシ類					
	ミカンハモグリガ	2,000				
	ミカンハダニ、ミカンキイロアザミウマ	1,000				
もも	アブラムシ類、モモハモグリガ	1,000～2,000	100～300	収穫3日前まで	5回以内	
	シンクイムシ類	1,000				
きゅうり	アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類	1,000～2,000	100～300	収穫前日まで	4回以内	
メロン	アブラムシ類、ハダニ類			収穫3日前まで		
すいか		1,000		収穫14日前まで	3回以内	
かぼちゃ	コナジラミ類					
なす	アブラムシ類、ハダニ類	1,000～2,000		200～400	摘採21日前まで	
トマト	コナジラミ類	2,000				
茶	チャノココクモンハマキ、チャノホソガ チャノミドリヒメコバエ、チャノキイロアザミウマ	1,000～2,000				
	ツマグロアオカスミカメ、チャハマキ	1,000	1,000			
	クワシロカイガラムシ					
きく	ハダニ類		100～300	—	6回以内	

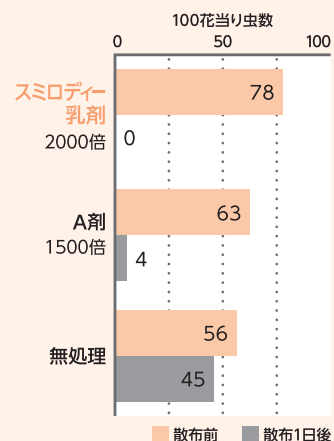
※フェンプロパトリン、MEPを含む農薬の総使用回数はラベルでご確認ください。

2021年4月現在の登録内容

試験成績

香川農試府中分場圃場
(1989年)

ケシキスイ類(カンキツ)



品種：宮内伊予柑 高接ぎ9年目
規模：1区7樹
散布：5月9日
発生状況：並
調査：5月9日(散布前)と5月10日に
1区5樹について1樹25花の虫数を調査。

上手な使い方

害虫の発生初期をねらいます

速効性と残効性を活かして害虫発生初期
の防除を行うとより効果的です。

併殺効果をねらいます

同時に発生している数種の害虫の併殺
効果をねらってください。

均一に散布します

薬液のかかりにくい葉裏、下葉などにも
むらなく均一に散布してください。

ローテーション散布を行います

過度の連用はさけ、各地域の防除基準や
防除暦に沿って、作用性の異なる薬剤と
の体系防除を行ってください。

使用上の注意事項(抜粋)



- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- ボルドー液と混用する場合は散布直前に行い、できるだけ早く使用してください。ただし、その他のアルカリ性の強い農薬との混用はさけてください。
- 桃の初期散布(5~6月)には葉害のことがあるので注意してください。
- ミカンハダニに対する残効は短い傾向があるので留意してください。
- ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすいので、本剤の連続使用はさけ、作用性の異なる他の殺ダニ剤と輪番で使用してください。また、本剤の年間使用回数もできるだけ少なくするよう努めてください。
- きゅうり、メロンなど果菜類の幼苗期に使用すると、黄化等の薬害を生じることがあるので、この時期に使用する場合は所定範囲内の低濃度で散布してください。
- あぶらな科作物には薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合にはからないように注意して散布してください。
- 自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

- 原液は眼に対して刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の処置を受けてください。
- 原液は皮膚に対して刺激性があるので、散布液調製時には不浸透性手袋を着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意し、また散布液も皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- のど、鼻、皮膚などを刺激する場合、また、かゆみを生じる場合があるので注意してください。
- 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を交換してください。
- 摘果等の作業の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

- 薬に長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、薬に付着するおそれのある場所では使用しないでください。

- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかけられないようにしてください。
 - ② 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。
 - ③ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。

- 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 小児の手の届く所には置かないでください。● 空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

03R4D21S36:J2

2021年4月作成(ジェイツ・コンプレックス)

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCA GROUP

住友化学



動画
チャンネルは
こちら！

〒103-6020 東京都中央区日本橋2丁目7番1号
お客様相談室 ☎ 0570-058-669
農業支援サイト <https://www.t-nouryoku.com>
住友化学アグロ事業部

